

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 2 区分

【発行日】平成20年8月14日(2008.8.14)

【公開番号】特開2002-172453(P2002-172453A)

【公開日】平成14年6月18日(2002.6.18)

【出願番号】特願2001-272271(P2001-272271)

【国際特許分類】

B 2 2 D 11/128 (2006.01)

B 2 2 D 11/12 (2006.01)

B 6 5 G 39/00 (2006.01)

F 1 6 C 13/00 (2006.01)

F 2 7 B 9/24 (2006.01)

【F I】

B 2 2 D 11/128 3 4 0 C

B 2 2 D 11/128 3 4 0 D

B 2 2 D 11/12 C

B 2 2 D 11/12 D

B 6 5 G 39/00 Z

F 1 6 C 13/00 C

F 2 7 B 9/24 R

【手続補正書】

【提出日】平成20年7月2日(2008.7.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】 回転駆動可能に炉の外方に支承された軸（3）を有し、内方に位置する冷却材ダクト（4、5）と、収容孔（1）によって軸（3）上に配設されて搬送平面を形成する担持リング（7）とを備えた、ローラハース - 加熱炉によって、搬送物、例えば連続鑄造材料を搬送するための水冷可能なファーンエスローラにおいて、

接触面は、担持リング（7）の収容孔（1）の内径に及び又は軸（3）の外径に殆ど一定の直径の嵌合面（6、6）を備えたポリゴン輪郭の形でいわゆる弱いオーバーラップとして形成されていることを特徴とする前記ファーンエスローラ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 8】 一定の直径を有するポリゴン輪郭として形成されたオーバーラップが、担持リング（7）の収容孔（1）の内径における接触面と軸（3）の外径との間の狭い嵌合公差を有し、回転トルクの伝達のための担持リング（7）と軸（3）との間のねじれが比較的著しい弾性 - 塑性変形に繋がることを特徴とする請求項 1 から 7 までのうちのいずれか 1 つに記載のファーンエスローラ。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

【 0 0 0 5 】

ローラハースファーネスにおける搬送ローラは、水冷部を備えることができ又は冷却装置なしにもいわゆる乾式ローラとして配設されることができる。